

拠点校の事業実施報告書

拠点校名：海津市立高須小学校

1 年間スケジュールに基づいて実施した事業経過

月	取組の内容
4	・研究内容、研究計画についての共通理解と役割分担 ・児童の英語活動に関する実態調査
5	・年問題材一覧計画の作成
6	・学習の仕方の徹底（聞く姿勢・話す姿勢） ・校内研修（チャンツ、歌、スキットの提示の仕方）
7	・1学期の研究の見直し ・児童の英語活動に関する実態調査 ・部会研（3年2組）
8	・1学期の成果・課題と2学期の計画 ・教材・教具の工夫と開発（歌の内容・校内掲示） ・校内研修（先進校の授業をビデオ視聴した後に授業研究） ・校内研修（歌と教室英語） ・年間の題材一覧見直し
9	・単位時間の学習過程（学習活動の流れ）の在り方 ・校内研修（英語表現）
10	・単位時間の学習過程（学習形態） ・部会研（5年3組）
11	・全校研究会（5年3組） ・児童を励ます評価の在り方（相互評価と教師からの評価） ・資料収集研修（11/3 名古屋都市センター）
12	・児童の英語活動に関する実態調査 ・資料収集研修（12/27 愛知教育大） ・2学期の研究のまとめと見直し
1	・単元指導計画の見直し（評価規準とねらい）
2	・先進校視察（2/7 岐阜県中川小） ・拠点区実践交流会の開催 ・県における拠点校連絡協議会参加
3	・資料収集研修（3/2 大阪成蹊大） ・児童の英語活動に関する実態調査 ・本年度のまとめと来年度の研究の方向

2 本校における取組の具体的な内容

(1) 教員の指導力向上のための取組

全校研究会での研究授業や模擬授業の実施

先進校の視察や研修会に参加して収集した情報を職員間に広めるようにした。また、全校研究会

に向けて、事前の授業研究会で模擬授業を行い、本時の研究の視点を明確にして研究会に参加できるようにした。

さらに、学級担任が主体となって指導ができるように、本年度はJTEが毎時間の授業の中で学級担任の動き方について模範を示してきた。

教室英語や歌などの紹介

職員会議や打ち合わせで、ほめ言葉や指示の言葉、学校で使われる英語、歌やチャンツなどについての研修を行った。また、各クラスに英語の歌のCDを配布したり、昼の放送で英語の歌を流したりするなどの環境整備を行ってきた。

(2) 指導方法の工夫改善

題材や配列の工夫改善

学校行事や季節等に即し、児童が興味をもつ題材を選定した。そして、1つの題材について、2～6時間で単元を構成し、児童が毎時間の内容のつながりを意識できるようにした。

例えば、1学期は、あいさつ、友達へのインタビュー等クラスの仲間について知る活動を位置付けた。1年生から一緒に過ごす仲間のこと、英語を使って改めて質問し合うことで、新しい面を発見することができた。また、6年生の修学旅行に合わせ、「修学旅行で外国の人と話をしよう。」という活動を設定し、修学旅行の準備とその報告会を行った。交流した外国の方からサインをもらったり、写真を一緒に撮ってもらったりすることで英語が通じたという喜びを感じることができた。

【資料1】<第6学年 英語活動年間指導計画(抜粋)>

6 月	6	国旗の色と形の色塗り	個人	<単元のねらい> ・学旅行で外国人観光客に話しかけ、名前や出身地を尋ねる活動を通して、「Excuse me. Where are you from?」等の表現に親しみ、事実や気持ちを伝え合うことができる。	(国名) Japan Canada Switzerland Indonesia Poland Denmark Turkey Singapore 等 (対話例) Hello, how are you? I'm ~. What's your name? My name is ~. Where are you from? I'm from ~. Let's take a picture. This is for you. This is ~. Have a nice day. Sign, please. Goodbye! His name is ~. The country is ~. This is a signature.
	7	カードゲーム	ペア		
	8	修学旅行 シミュレーション	ペア		
	9	5時間 シミュレーション	グループ		
10		体験の発表	グループ		

単元指導計画の工夫

単純なゲーム活動ではなく、英語を使って仲間とかわり合いながら作業的な活動を通して課題解決できるようにした。単元のはじめに、単元の終末にはどのような活動を行うのかをスキットや資料で示した。言語材料は、単元終末での活動に見通しをもちながら、必要な言語材料を精選し、児童が毎時間繰り返して聞いたり使ったりすることで、楽しんで活動できるようにした。

例えば、5・6年生「これは何でしょう。」では、単元終末にペアで自分たちの考えた食べ物クイズを出題し友達のクイズに答える活動を行う。このことを単元のはじめに児童に提示して、活動意欲を喚起し、児童が見通しをもって活動できるようにした。また、児童が達成感を味わえるよう、明確なねらいをもったクイズやゲームを各単位時間に設定した。

【資料2】 単元指導計画の工夫							
単元のねらい：「What's this ?」ゲームを通して、味や食べ物の言い方やゲームの出し方に慣れ親しみ、食べ物の特徴をはっきりとした声で伝えたり、分からないときにはもう一度言ってもらうように頼んだりしながら、食べ物の特徴を考えて出したり、ヒントを聞いて答えたりすることができる。							
時間	1	2	3	4	5	6	
ねらい	ペアクイズゲームを通して、野菜や果物の形や大きさの特徴をよく聞いて、何の果物かや野菜かを当てることができる。	ペアカルタゲームを通して、野菜や果物の形や大きさ、味の特徴をよく聞いて、何の果物かや野菜かを当て、言うことができる。	「What is this ?」ゲームを通して、野菜や果物の特徴を説明したり、それを聞いて答えたりして、目を見て反応しながらペア活動することができる。	「What's this ?」ゲームを作る活動を通して、野菜や果物について特徴を考えて、クイズをペアで協力して作ることができる。	ゲームの内容をペアで練習する活動を通して、出題の仕方や答え方、分からないときの反応の仕方を見えることができる。	「What is this ?」ゲームを通して、食べ物の特徴を説明したり、それを聞いて答えたりして、目を見て反応しながら、はっきりと	
主な活動	Greeting & song あいさつをする。 ALT's time 今日の話題を聞く。(ALTの好きな果物・アボカド) Today's goal 単元のねらいを 果物や野菜の形や大きさ、色や味の特徴をよく聞いて、何の果物かや野菜かを当てることができる。 Practice チェックをする。 Activity ペアクイズをする Today's comment 今日の活動を振り返る Greeting あいさつをする。	Greeting & song あいさつをする。 ALT's time 今日の話題を聞く。(ALTの好きな果物・アボカド) Today's goal 単元のねらいを 果物や野菜の形や大きさ、色や味の特徴をよく聞いて、何の果物かや野菜かを当てることができる。 Practice チェックをする。 Activity ペアクイズをする Today's comment 今日の活動を振り返る Greeting あいさつをする。	Greeting & song あいさつをする。 ALT's time 今日の話題を聞く。(ALTの飲んだ物の紹介) Today's goal 本時のねらいをつかむ。 スキット 本時のねらいをつかむ。 コーヒーカーレーライスの紹介 ペアで協力して、好きな食べ物についてのクイズを作る。	Greeting & song あいさつをする。 ALT's time 今日の話題を聞く。(ALTの食べた物の紹介) Today's goal 本時のねらいをつかむ。 スキット 本時のねらいをつかむ。 コーヒーカーレーライスの紹介 ペアで協力して、好きな食べ物についてのクイズを作る。	Greeting & song あいさつをする。 ALT's time 今日の話題を聞く。 Today's goal 本時のねらいをつかむ。 活動5 クイズやゲーム 出口の活動に向けての練習 練習して自分の得意な食べ物について発表する。 Today's comment 今日の活動を振り返る。 Greeting あいさつをする。	単元終末の活動 食べ物クイズの活動 (ペア) 今日のポイントができるように 「What's this ?」ゲームをしよう ・アイコンタクト・クリアボイス ・ジェスチャー・反応 Practice クイズの出題の練習をする。 Activity 「What is this ?」ゲームをする。 Today's comment 今日の活動を振り返る。 Greeting あいさつをする。	
言語材料	orange/cabbage/ carrot/ corn/cucumber/chilippiper/lemon/ pineapple/pepper/sweet potato	spicy/sour/sweet/bitter	Sign please. Here you are.	(対話例) Sign please. Here you are.			
評価規準	野菜や果物の形や大きさ、色や味の特徴をよく聞いて、何の果物かや野菜かを当てることができる。(話し)	野菜や果物の形や大きさ、色や味の特徴をよく聞いて、何の果物かや野菜かを当てることができる。(話し)	はっきりとした声で、誰とでも、特徴を説明したり、特徴を聞いてそれが何かを当てることができる。(態度)	出題する食べ物の特徴やどんな特徴があるかを教師やペアで相談して考える。	ペアで交流に慣れつつ自分の得意なクイズのやりとりや反応の仕方をペアで練習する。	クイズ、特	
配慮事項	活動の前にペアで確認カードを見ながら、確実に聞き取れるようにする。	活動の前に野菜や果物の特徴をペアで確実に伝えるようにする。	活動の前にペアで確実に伝えるようにする。ゲームを共に行い、何かを当てられるようにする。	出題する食べ物の特徴やどんな特徴があるかを教師やペアで相談して考える。	ペアで交流に慣れつつ自分の得意なクイズのやりとりや反応の仕方をペアで練習する。	活動の前にペアで確認に伝えるようにする。ゲームを共に行い、何かを当てられるようにする。	

単位時間の学習の流れのパターン化

一時間の授業の流れを次のように分け、黒板にも掲示をして学習過程をはっきり示すことで、児童が見通しをもてるようにした。

< 英語の授業の流れ >

1. Greeting & Song (挨拶と歌)
2. ALT time (ALTの話)
3. Today's goal (今日のめあて)
4. Practice (新しい言葉の練習)
5. Activity (中心となる活動)
6. Today's comment (感想)
7. Greeting (終わりのあいさつ)

< 主な活動、指導内容 >

- ・児童が進行する。
- ・本時の活動の導入として、ALTが自分の国の出身地や外国の文化の紹介を行う。
- ・ALTが他の指導者と共に活動の導入を行う。
- ・児童の理解を確かめるために話の途中で聞き返しながら行う
- ・今日のめあては、学級担任が提示する。
- ・ALTとJTE、ALTと学級担任で演示したり本時の活動の練習やルール説明をしたりする。
- ・本時のねらいに沿って、学級担任、ALT、JTEの立場から活動を見届ける。
- ・本時のねらいに沿って、活動を評価する。

(3) A L T や地域人材等の効果的な活用

A L T の英語を聞く場の設定

まとまった内容の英語を類推しながら聞く体験として、A L T の出身地や外国の文化を理解するために「A L T Time」の時間を設けた。

学級担任・J T E・A L T による英語活動の実施

本校では、4月から5・6年生では3人の指導者で授業を行ってきた。J T E とA L T が打ち合わせをする時間を確保して、A L T と学級担任とのT T をスムーズに行うことができるようにした。

また、3人の指導者のうち、誰が何をどの場面で指導していくとより効果的に授業ができるのかを明確にするために、3人の役割を以下のように分担した。

学級担任は、授業の進行や活動の見届け及び児童のモデルを示範する。評価は、主に人とのかわりの面や、前時からの伸び、学校生活の中で認めたい児童を中心に行う。

J T E は、A L T とのスキットの演示、練習、活動中の指導・援助をする。評価は評価規準の観点から大切にしたい点を中心に行う。

A L T は、英語や英語文化のモデル、主に英語を発話して児童に英語の音声を提示する。評価は、英語を使って児童とかわることができた喜びを伝える。

【1時間の活動における3人の役割】

授業の流れ	学級担任	J T E	A L T
1 あいさつ・歌	児童のあいさつや歌の姿を見届ける。	児童と共に元気に挨拶し歌う。	児童と元気に挨拶し歌う。
2 A L T time	児童の様子を見守りながらA L T の話を聞く。驚いたりつぶやいたりして反応するモデルを示す。	児童の様子を見守りながらA L T の話を聞く。驚いたりつぶやいたりして反応するモデルを示す。	A L T の国や外国の文化の紹介を行う。聞き返すなど児童の反応を引き出しながら行う。
3 今日のめあて	大切な点も含めて、めあての提示をする。	めあての提示を援助する。(板書をすることもある。)	教室前方にて、めあての提示を援助する。
4 新しい言葉と練習	児童のモデルをスキットで演示する。	チャンツやスキットでリードする。	チャンツやスキットでリードする。
5 活動	全体を見て、活動の様子を見届けたり、困っている児童について援助したりする。	児童の中に入って分からないところについて質問を受ける。評価規準の大切にしたい点から見届ける。	児童の中に入って会話をする。分からないところについて質問を受ける。活動を指導・援助する。
6 まとめ・感想	学校生活全体を見通して認めたい児童を評価する。人とのかわりの面、前時からの伸びを評価する。	評価規準の面から大切にしたい点を中心に評価する。	英語を使ってかわることができた喜びを伝える。
7 終わりのあいさつ	児童と共に元気に挨拶をする。	児童に元気に挨拶を返す。	児童に元気に挨拶を返す。

(4) 児童の興味・関心等学習状況の変容の把握

児童の意識調査の実施

・実施時期・回数：4月当初と各学期末、合計4回

【英語に関するアンケート「英語は楽しいですか」】 (5年80名、6年生70名)

	4月			7月			12月		
	5年	6年	平均	5年	6年	平均	5年	6年	平均
毎回楽しい・大体楽しい	90.1	91.3	90.7%	93.8	80.3	87.8%	90.0	88.4	89.3%
つまらない時がある・毎回つまらない	9.9	8.7	0.3%	6.2	19.7	12.2%	10.0	11.6	10.7%

7月実施のアンケートでは、6年生の「楽しい」が減少している。これは、7月に行った英語活動の言語材料が児童にとって難しく量が多すぎたからと考えられる。そこで、時間配当を見直し、児童が言語材料に無理なく親しめるようもう少し時間をかけて繰り返し指導することにした。

また、英語活動についての感想として次のような回答がみられた。

- ・「英語を話すと楽しくなってきた。」
- ・「みんなと楽しく会話できた。」
- ・「グループで教え合えるようになった。」
- ・「話がたくさんできるようになった。」
- ・「友達の輪が広がった。」
- ・「教え合って英語が学べた。」
- ・「アイコンタクト、クリアボイス、反応など相手のことを考えてできるようになった。」
- ・「積極的に話しかけられるようになった。」
- ・「ジェスチャーができるようになった。」等

授業のゲーム、クイズなどの活動が楽しいだけでなく、活動の中での仲間とのかかわりについて触れている児童が見られた。

3 本校における取組の成果等

(1) 成果

英語活動の指導法の研修

JTE(本校職員)が校内の英語活動を推進するコーディネーターの役割を務め、全校研究会や職員研修を実施したことにより、英語活動のねらいや指導方法について全職員で共通理解できた。

指導計画の作成及び指導方法の工夫改善

学校行事や季節等を考えた題材選定や配列により、児童が英語活動の内容に興味・関心をもち、意欲的に取り組むことができた。

単元の終末を見通して、各単位時間にねらいを明確にしたクイズやゲーム活動を設定するとともに、言語材料に慣れ親しめるように活動形態を変えながら段階を踏んで活動したことで、児童が単元終末に達成感を味わうことができた。

授業の流れをパターン化したことで、学級担任も児童も見通しをもって進んで活動に取り組むことができた。

A L Tや地域人材等の効果的な活用

学級担任、JTE、A L Tの各役割を明確にすることで、学級担任が主体となって活動を仕組めるようになってきた。

児童の興味・関心等学習状況の変容の把握

児童の意識調査を毎学期実施するとともに、学級担任やJTEが授業での児童の様子や結果を考察して次学期の教材開発を工夫したことにより、進んで活動する児童の姿を生み出すことができた。

(2) 課題

職員研修

- ・全職員の指導力が向上するように、研修内容の工夫を図るとともに、模擬授業を増やし実際の活動を通して指導力を高めていく。

指導計画

- ・児童の実態を踏まえて、毎時間の評価の観点を明確にするとともに、さらにコミュニケーション能力を高めていくための題材と学習形態を工夫していく。

指導体制

- ・学級担任、JTE、ALTの3人体制から学級担任、ALTの2人体制等への円滑な移行について考える。

環境

- ・英語環境の一層の充実を図る。